

次の文を読み1~3の問いに答えよ。

Aさん(50歳、男性)は5年前、職場の定期健診で、肝機能の異常を指摘され、専門外来を受診するように勧められた。専門外来受診時の血液検査においてHCV-RNA(+)、HCV抗体(+)
で、C型肝炎と診断され、入院して抗ウイルス療法を受けた。その後、定期的に受診していたが、数日前から全身倦怠感と眼球結膜の黄染がみられ、受診した。血液検査の結果、AST 120U/L、ALT 48U/L、 γ -GTP 63U/L、ALP 347U/L、総ビリルビン 2.9mg/dL、血小板数 15万/ μ L、アルブミン 3.3g/dL、アンモニア 84 μ g/dL、プロトロンビン活性値 72%であった。CT検査では、少量の腹水の貯留が認められ、肝硬変と診断され、入院となった。

- 1 Aさんの入院時のアセスメントとして正しいのはどれか。
 1. チャイルド・ピュー分類による肝臓の予備能力の評価はGrade Aである。
 2. 眼球黄染の原因は、胆道の閉塞による閉塞性黄疸である。
 3. 腹水貯留の要因は、アンモニアの上昇が考えられる。
 4. AST>ALT値のパターンから、肝臓の全体に障害が及んでいると考えられる。
 5. 仰臥位で打診を行うと、臍部周辺に濁音を認めることが予測される。

- 2 Aさんは入院後も全身倦怠感、眼球結膜の黄染が続いており、呼びかけで目を開け、何とか会話ができる。Aさんへのケアとして適切なのはどれか。
 1. 食事は、良質の蛋白質を多く摂るよう指導する。
 2. 熟眠できるよう、訪室を控える。
 3. 便や尿の観察を行う。
 4. 胆道ドレナージの準備を行う。
 5. 保温のために、寝衣を1枚多くするように促す。

- 3 Aさんは、対症療法で症状が軽快したため2日後に退院することになった。Aさん及び家族に行く退院指導として適切なのはどれか。
 1. 昼夜逆転異常行動などがみられた場合は、精神科を受診するよう説明する。
 2. 口渇がみられたら、水分とともに、塩分も補給するよう説明する。
 3. 調子がいいときには、ジョギングなどの運動を勧める。
 4. 緩下薬は下血を誘発するので使わないよう説明する。
 5. 掻痒感があれば、重層などのアルカリ性薬品を入れたぬるま湯で清拭する方法が効果的であると説明する。

次の文を読み 4～6 の問いに答えよ。

A さん(61 歳、女性)は、夫(67 歳)と 2 人暮らし。日常生活は自立している。15 年前に高血圧症と 2 型糖尿病と診断され、食事療法と経口血糖降下薬の内服を開始した。夫との晩酌が A さんの楽しみであり飲酒の機会が多い。5 年ほど前より体重が減少してきたため、糖尿病は改善していると自己判断し、病院受診も不定期になり、治療継続が困難になった。眼科も定期的に受診するよう医師に言われていたが、特に自覚症状はなかったため受診はしていなかった。1 年ほど前より物が見えづらくなり、加齢に伴うものだろうと思い放置していたが、左眼の急激な視力低下(0.01)と視野内に虫のようなものが飛んで見える現象(飛蚊症)を自覚した。また右眼も視力低下(0.03)があり、手すりがないと歩行も今まで通りにはできなくなった。夫の付き添いのもと病院を受診し、精査の結果、両眼の糖尿病網膜症と診断され、全身麻酔下で左眼の硝子体手術を行うこととなった。A さんは身長 155cm、体重 60kg、入院時の血液検査は HbA1c 7.8%、空腹時血糖 226mg/dL、血圧 148/84mmHg であった。

4 入院初日、A さんは「体重も減ってきたし、空腹時の血糖値が正常な日もあったので糖尿病は悪化していないと思っていました」と看護師に話した。看護師の対応で最も適切なものはどれか。

1. 「合併症を予防するために空腹時の血糖値は 150mg/dL 未満に保てるようにしましょう」
2. 「運動を取り入れて、もう少し体重を減量できるとよかったですね」
3. 「体重や空腹時血糖値のみでなく、HbA1c の値も参考にしましょう」
4. 「血液検査の結果では、A さんの空腹時血糖値や HbA1c の値は正常の範囲です」

5 A さんは「このままだと夫に迷惑をかけてしまいます。手術を受けて早く元通りの生活に戻りたいです」と看護師に話す。看護師の対応で適切なものはどれか。

1. 「手術を受ければ視力はすぐに回復します」
2. 「手術をして、安全に生活できるような対策を考えましょう」
3. 「退院後は定期的に眼圧測定を受け、視力の悪化を予防しましょう」
4. 「ご主人に頼らず生活できるよう、がんばりましょう」

6 手術後の A さんに対する看護師の対応で最も適切なものはどれか。

1. 病室にポータブルトイレを設置する。
2. 術翌日から入浴ができることを説明する。
3. 術後約 1 週間は顔を下に向ける必要があることを説明し、危険防止に努める。
4. 術翌日の医師の診察で問題なければ、眼鏡を作成できることを説明する。

次の文を読み 7～9 の問いに答えよ。

A さん(58 歳、男性、営業係長)は、仕事で多忙な日々を過ごしていた。数か月前から食欲不振、咽頭痛、耳下腺の腫脹、鼻閉感がみられていたが風邪と自己判断し放置していた。2 週間前、右頸部の無痛性腫瘍に気づき近医を受診。血液検査の結果、白血球 $4,600/\mu\text{L}$ 、好中球 $2,410/\mu\text{L}$ 、赤血球 416 万/ μL 、ヘモグロビン 13.8g/dL、血小板 20 万/ μL 、CRP 0.4mg/dL、AST 22U/L、ALT 20U/L、LDH 368U/L であったため、精査のために大学病院を紹介された。大学病院では血液検査、胸部エックス線写真、リンパ節生検、PET-CT を行った。

7 検査の結果、A さんは悪性リンパ腫(非ホジキンリンパ腫：びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫)と診断された。大学病院で行った下記の検査で診断確定に必須の検査はどれか。

1. リンパ節生検
2. 胸部エックス線
3. PET-CT
4. 血液検査

8 A さんは化学療法(リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキシソルビシン、オンコビン、プレドニゾロン：R-CHOP 療法)を受けるために入院した。A さんは入院初日、右鎖骨下に CV ポート(皮下埋め込み型ポート)を挿入し、本日から化学療法開始予定である。A さんへの説明で適切なのはどれか。

1. 「化学療法中は酸素を投与します」
2. 「化学療法中は腕を伸ばし固定します」
3. 「化学療法後 1～2 日間は尿や汗が赤くなります」
4. 「化学療法 5 日目ころから脱毛がみられます」

9 A さんは化学療法後、3 日ほど悪心はあったがその後の経過は順調なため、3 日後(入院 17 日目)に退院が決まった。2 クール目以降は外来で化学療法を行う予定である。A さんへの退院指導で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 「休職することを上司に相談しましょう」
2. 「外出時はマスクを着用し人混みを避けましょう」
3. 「化学療法を行ってから 2 日間は、排泄後はトイレのふたをして 2 回流するようにしましょう」
4. 「食事量と摂取カロリーを毎日記録しましょう」
5. 「入浴は控えましょう」

次の文を読み 10～12 の問いに答えよ。

A さん(48 歳、男性)、会社員。1 年前から在宅ワークが増え、外出する機会も少なくなっている。食事は揚げ物や肉類が多く、ほぼ毎日飲酒もする。健康には自信があり、特に自覚症状もなかったが、今年度の健康診断で血液検査の異常があり、便潜血が陽性であった。そのため精密検査を勧められ来院した。健康診断での血液検査データは白血球 $6,400/\mu\text{L}$ 、赤血球 $434 \text{ 万}/\mu\text{L}$ 、Hb 14.3g/dL 、CRP 0.1mg/dL 、AST 32U/L 、ALT 28U/L 、 $\gamma\text{-GPT}$ 62U/L 、LDL コレステロール 148mg/dL 、HDL コレステロール 36mg/dL 、クレアチニン 0.64mg/dL 、尿素窒素 11mg/dL 、尿酸 7.0mg/dL である。

10 健康診断での血液検査データのアセスメントで適切なのはどれか。

1. 感染症が考えられる。
2. 腎機能低下がみられる。
3. 貧血が認められる。
4. 脂質異常症が考えられる。

11 精密検査として大腸内視鏡検査を行った。結果、早期の直腸癌(T1aNOMO、ステージ I) と診断された。3 日後、入院して内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を受けた。手術当日の夜に A さんは腹痛と軽度の腹部膨満を訴えた。嘔吐はみられない。術後の血液検査データは白血球 $7,600/\mu\text{L}$ 、赤血球 $430 \text{ 万}/\mu\text{L}$ 、Hb 14.2g/dL 、CRP 0.26mg/dL 、電解質異常なし。A さんの状態で考えられるのはどれか。

1. 消化管穿孔
2. 鼓腸
3. 便秘
4. 脱水

12 A さんは腹痛もおさまり、その後の経過は順調で退院することになった。退院指導として正しいのはどれか。

1. 退院後はなるべく自宅で過ごし安静にする。
2. 便秘のときはすぐに浣腸を行う。
3. 脂肪分の少ない食品を選択する。
4. 早期癌であったため今後は検査の必要はない。

次の文を読み 13～14 の問いに答えよ。

A さん(80 歳、男性)は 2 年前に妻が他界し、1 人暮らし。最近は、外出する頻度が減り、1 日中テレビを見て過ごすことが多くなった。以前は自分で調理をしていたが、近くのスーパーで惣菜やレトルト食品を購入することが増えた。最近、噛むことに疲れるようになり、硬いものを食べるのが面倒になってきている。お茶や汁物等でむせることはない。「食欲がない」と話している。半年前より体重が 3kg 減少している。ひとり娘が他県に住んでおり、月に 1 度様子を見に訪れる。

13 A さんの状態を心配した娘に勧められ、A さんは内科外来を受診した。受診時、身長 162cm、体重 48kg であった。血液検査の結果、赤血球 390 万/ μ L、白血球 6,000/ μ L、血小板 15 万/ μ L、Hb 10.0/dL、Ht 30%、総蛋白 5.6g/dL、アルブミン 3.2g/dL、上部消化管内視鏡検査・胸部エックス線写真に異常所見はみられない。外来看護師が行う A さんと娘への助言として適切なのはどれか。

1. 「娘さんが 1 週間に 1 回は食事をつくりに来てください」
2. 「毎日体を動かすことは大切なので、リハビリに通ってください」
3. 「固いものは小さく切って、できるだけ噛んで食べましょう」
4. 「惣菜やレトルト食品は手軽だから、いままで通り利用していいですよ」

14 A さんの状況改善のために多職種と協働することになった。連携する職種で最も優先度が高いのはどれか。

1. 理学療法士
2. 管理栄養士
3. ケアマネジャー
4. 言語聴覚士

次の文を読み 15～17 の問いに答えよ。

A さん(71 歳、女性)、独居。5 年前の健康診断で糖尿病、高血圧症、脂質異常症の指摘を受けたが自覚症状はなく放置していた。昨夜午後 8 時に左半身の違和感を自覚、今朝午前 6 時に起床したときには左半身を思うように動かすことができず、言葉も発することができずにいた。そこに近隣に住む長女が訪れ救急搬送された。MRI の結果、右中大脳動脈領域の脳梗塞(BAD タイプ)と診断され、完全麻痺まで悪化していた。脳保護薬(エダラボン)、血漿増量・体外循環灌流液(低分子デキストラン)、抗血栓薬(アスピリン)、脂質異常症治療薬(スタチン)の点滴や内服に加え、糖尿病、高血圧症に対する薬物、食事による治療が行われた。今後、入院 2 週間を目処に回復期リハビリテーション病院へ転院予定である。

- 15 入院 10 日目、ベッド上仰臥位から端座位への移動は自力で行える。立位時、左側を支えると立位可能であるが踏ん張ることができず、右膝が屈曲したまま車椅子に移乗しようとしている。このときの援助で適切なのはどれか。
1. A さんの右側に立ち介助する。
 2. A さんのそばで見守る。
 3. 立位時、右半身へ注意を向けるよう説明する。
 4. 一度ベッドに座ってもらい全介助する。
- 16 A さんは電話を使って長女との意思疎通も図れるようになってきたが、講音障害は継続しており、看護師の声かけに「らいじょうふ(大丈夫)」や「おおです(そうです)」などと返答する。A さんとのコミュニケーション場面で適切なのはどれか。
1. 50 音表を用いる。
 2. 落ち着いて A さんの話を聞くように努める。
 3. 実物、写真、身振り・手振りなどを用いて話すようにする。
 4. こちらからは話しかけず、A さんから話してくるのを待つ。
- 17 入院 12 日目、A さんは糖尿病食ミキサー食から糖尿病軟菜へ形態アップした。長女から、「父が 5 年前に亡くなってから母は自炊することがほとんどなく、お惣菜や菓子パンで済ますことが多いです。寝る時間や起きる時間はいつもバラバラです。次の病院を退院して自宅に帰ってきたとき、食事では何に気をつけたらいいでしょうか」と質問された。長女に指導すべき内容として最も適切なのはどれか。
1. これまで通りの食生活でよいです。
 2. 低蛋白・高脂質の食事がよいと話す。
 3. 卵の摂取は禁止したほうがよいと話す。
 4. 塩分を控え水分はこまめに摂取する必要があると話す。

次の文を読み 18～20 の問いに答えよ。

A さん(77 歳、女性)は静かな住宅街の一軒家で夫(80 歳)と 2 人で暮らしている。週 3 回 2 人でデイケア(介護予防通所リハビリテーション)に通っており、週末は近所に住んでいる娘夫婦が訪れていっしょに食事をしたり、家の掃除を手伝っている。最近、A さんには物忘れや不眠、手指の小刻みな震えが認められていたが、年齢を考えるとしかたないと家族も考えていた。デイケアのない日曜日の朝、夫が起きると A さんの姿が見えず、警察から徘徊していた A さんを保護したと連絡が入った。病院受診の結果、初期のレビー小体型認知症であると診断された。娘夫婦はフルタイムで仕事をしており、平日に休みを取ることは難しい状況にある。

18 A さんが発症したレビー小体型認知症の症状や経過について適切なのはどれか。

1. 初期から記憶障害や認知機能障害が顕著に認められ、物取られ妄想に発展することも多い。
2. A さんの手指の震えはパーキンソニズムであると考えられる。
3. しばしば躁状態を呈するため、精神状態の観察が必要である。
4. A さんには今後、妄想が出現することがある。
5. 診断初期から適切な薬物療法を開始すれば完治することも多い。

19 A さんは夫の目を盗んで外に出て徘徊するようになり、娘夫婦も夜から翌朝まで交代で泊まり込むこととなった。デイケアに加え、訪問看護の利用が始まった。A さんの徘徊への対応として適切なのはどれか。

1. 徘徊の理由を探ることは意味がないため、徘徊しないような物理的工夫が重要である。
2. 家族らが徘徊に同行していっしょに外を散歩することも効果的である。
3. 夜間は A さんの部屋に鍵をかけたか、玄関の靴を隠すといった工夫も有効である。
4. 事故を防ぐためには、A さんを抑制することも有効な選択肢の 1 つである。

20 泊まり込みを開始して数週間が過ぎ、娘夫婦は疲労を訴えている。娘は「徘徊していることを近隣の人に知られたくありません」「両親はこれからも 2 人で生活したいと言っているので、夫婦で入れる施設に入りたい」と訪問看護師に相談してきた。A さん夫婦、娘夫婦への説明で適切なのはどれか。

1. 夫の自立度が高いため、夫婦での入所は制度上不可能だと説明した。
2. 施設に入所できるまでの期間、身体機能を維持するため、デイケアは継続しましょうと説明した。
3. 認知症を患った A さんのプライバシーを保護するため、A さんの施設入所を優先すべきだと説明した。
4. 施設入所までの期間、夜間の泊まり込みは家族でがんばって続けましょうと励ました。

次の文を読み 21～23 の問いに答えよ。

A くん(5 歳、男児)。眼瞼および下肢の浮腫と元気がないことに家族が気づき、外来を受診した。来院時、呼吸数 20/分、脈拍 100/分、血圧 100/56mmHg、体温 36.7℃。血液検査の結果、総蛋白 3.8g/dL、アルブミン 2.0g/dL、総コレステロール 305mg/dL、クレアチニン 0.6mg/dL であった。尿検査では、尿蛋白 3+でネフローゼ症候群と診断され入院することになった。入院時の身長 118cm、体重 25.0kg(2 週間前は 23.0kg)。最後の排尿は 4 時間前とのことであった。

21 A くんの症状のアセスメントとして適切なのはどれか。

1. 眼瞼および下肢の浮腫は低アルブミン血症が一因であると考えられる。
2. 眼瞼および下肢の浮腫により循環血液量が減少することで、血圧が高くなっていると考えられる。
3. 低アルブミン血症がみられるのは、肝臓のアルブミン合成が亢進しているためと考えられる。
4. 高蛋白尿により浸透圧が上昇し、多尿になることが考えられる。

22 ステロイドパルス療法が持続点滴で開始された。A くんへの説明で適切なのはどれか。

1. 「注射をしている間は、トイレに行けないからおむつにしようね」
2. 「注射をしている場所は、毎日確認して、きれいにしておくよ」
3. 「注射をしている腕は、お薬が入ってくるから痛くなることもあるけど、大丈夫だよ」
4. 「注射をしている腕は、使わないようにしようね」

23 A くんの蛋白尿が陰性になり、浮腫などの症状が改善したため、ステロイドの内服継続にて入院 33 日目で退院することになった。退院後の通院は 2 週間後で日程の調整を行った。A くと家族にする退院指導について適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 「最初は幼稚園はお休みして、今度病院に来る日に、いつから行けるか先生に聞こうね」
2. 「お外には、病気になるバイ菌がいるよ。A くんは気をつけないといけないからマスクをしようね」
3. 「お顔がまんまるになるのは、病気が悪くなっている知らせだから、その時は病院に来ようね」
4. 「病気になるバイ菌が A くんの身体の中に入って悪さをしないように、退院したらすぐに予防接種を受けようね」
5. 「お薬を飲み忘れたらまた入院しないといけなくなるよ。気をつけてね」

次の文を読み 24～26 の問いに答えよ。

Aちゃん(3歳3か月、女児)。出生直後にダウン症候群の診断を受けた。頸定5か月、つかまり立ち1歳、ひとり歩き1歳8か月、現在はその場ジャンプができています。4個の積み木の塔をつくることができ、手伝いがあれば歯磨きをする。2語文を話す。心室中隔欠損症を合併しており、日常生活に支障はないが、小学校入学前の根治手術を予定している。同居家族は父親(42歳、運送業)、母親(40歳、主婦)、兄(13歳、中学校2年生)で、いずれも健康である。Aちゃんは第2子で、4月から知覚の認定こども園に週2回通っている。

本日、定期受診のため外来受診を行った。身長80cm、体重10kg、体温36.9℃、呼吸数30/分、脈拍120/分。胸骨左縁下部で全収縮期心雑音を聴取する。SpO₂ 95%、チアノーゼなし。胸部エックス線写真で、心拡大や心不全の徴候はみられない。母親は「お兄ちゃんよりゆっくりですが、着実にできることが増えてきている。病気がわかったときには泣いたけど、うちに来てくれた天使ちゃんです。つい、かまってしまいますね」と笑顔で話している。

24 ダウン症候群の後天的な合併症について、この日に行う検査で最も適切なのはどれか。

1. 滲出性中耳炎
2. 弱視
3. う歯
4. 頸椎不安定性

25 Aちゃんの感染予防のため、母親への指導で適切なのはどれか。

1. 「予防接種は、体調を調整して積極的に受けましょう」
2. 「歯磨きを嫌がるときには、中止しても構いません」
3. 「外出は避けましょう」
4. 「寒がりなので、厚着をさせましょう」

26 Aちゃんの母親から「いろいろ相談して、4月から認定こども園に週2回行かせているのですが、「楽しかった」と話してくれない。通わせたいという私の思いだけなのかしら」と看護師に話した。このときの看護師の対応で適切なのはどれか。

1. 「ダウン症候群の子どもには、家庭での保育を勧めます」
2. 「親の思いで通園させるのは、ただちに中止しましょう」
3. 「Aちゃんの様子を観察して、保育士さんと相談してみましよう。」
4. 「もっとよい幼稚園や保育園もありますよ。色々なところに活かせましよう」

次の文を読み 27～29 の問いに答えよ。

A ちゃん(10 歳、女兒)、小学 4 年生。運動会に向けて毎日友だちと走る練習をしていた。練習後、嘔吐と腹痛がありぐったりとしていたため、母親とともに病院を受診した。母親は「最近、喉がひどく渇くみたいで、いつもより水をたくさん飲んでいました。夜中もトイレに何度も行くのでおかしいなと思っていたのです」と不安そうな表情である。

A ちゃんは受診時、身長 140cm、体重 31kg、意識レベル清明、体温 37℃、脈拍 75/分、呼吸数 18/分、血圧 110/60mmHg、SpO₂ 98%、血液検査では、血糖値 300mg/dL、HbA1c6.9%、Hb14g/dL、CRP 0.7mg/dL、総蛋白 5.6g/dL、アルブミン 3.6g/dL、Na 141mEq/L、K 4.8 mEq/L、クレアチニン 1.0mg/dL であった。動脈血ガス分析は、pH7.25、HCO₃⁻23 mEq/L、PaCO₂30mmHg。尿検査で尿中ケトン体(++)、尿比重 1.031 であった。ただちに入院となった。

27 入院時の A ちゃんへの処置として考えられるのはどれか。

1. 気管内挿管
2. 胃内視鏡検査
3. インスリンの静脈内持続投与
4. 利尿薬の投与

28 入院時の A ちゃんのアセスメントで適切なのはどれか。

1. 気管内挿管
2. 胃内視鏡検査
3. インスリンの静脈内持続投与
4. 利尿薬の投与

29 A ちゃんは 1 型糖尿病と診断された。数日入院して、血糖測定やインスリン自己注射の指導を受けることとなった。A ちゃんは「こんなに毎日何回も針を刺すのは痛くていやだ。これからも注射をずっとし続けるなんてできない」と泣き出してしまった。A ちゃんに対する看護師の声かけとして最も適切なのはどれか。

1. 「もう小学 4 年生なんだから、がんばらないといけないよ」
2. 「そうだね。何回も自分に針を刺すのは痛いよね。つらいね」
3. 「大丈夫。やってみたらそんなに痛くないよ」
4. 「最初は難しいから自分のしやすい場所に注射をしてもいいよ」

次の文を読み 30 の問いに答えよ。

A さん、B さん、C さんは同じ部屋に入院している。

A さん(67 歳、女性)は、人間ドックで肝機能低下を指摘され精密検査目的で入院している。7 年前に高血圧症と診断され、就寝前に降圧薬を服用している。

B さん(76 歳、女性)は、尿路感染症で通院加療していたが、5 日間 38℃台の熱が続いたため入院した。3 日間の抗菌薬の点滴後、体温は 36℃台に解熱した。今朝の血液検査データで CRP が 5.0mg/dL となり、抗菌薬は内服薬に変更になった。下肢筋力低下があり、手すりにつかまりながらの歩行をしている。

C さん(82 歳、女性)は、誤嚥性肺炎で加療していたが、4 週間前に軽快し、いったん退院した。退院後、食事が進まず発熱と湿性咳嗽を主訴に再入院した。胸部エックス線写真や CT、血液検査の結果、誤嚥性肺炎の再燃と診断された。抗菌薬の点滴後の体温は 36.9～37.2℃、SpO₂は 90～92%で経過している。自力での痰喀出が困難な場合は、口腔・鼻腔吸引を実施している。

30 夜勤の看護師は、A さんの就寝前の降圧薬与薬のため訪室し、C さんが激しく咳込んでいるのに気づいた。そのとき、B さんから「トイレに行きたい」という訴えがあった。看護師の対応で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. A さんの就寝前の内服薬を与薬する。
2. ナースコールで B さんのトイレの付き添いの応援を要請する。
3. B さんに少し待ってもらうよう説明する。
4. C さんの吸引をただちに実施する。
5. C さんのフィジカルイグザミネーションを実施する。